

## 令和元年度 八日市南高校福島ボランティアまとめ

### 1 目 的

- ・東北大震災の地に赴き、生徒が実習で培った知識や技術を復興に役立てる。
- ・被災地から学んだことを学校防災・地域防災へとつなげていく。
- ・福島県相馬農業高校生との交流によって、被災地の同世代の意見・想い・考えを聞き、今後の人生に活かす活動としたい。
- ・福島県飯舘村で2011年の春から栽培を予定していた「いいたて雪っ娘」が福島原発事故で栽培できなくなった。そのカボチャを本校では2014年度から栽培しているが、昨年度から飯舘村でも栽培が開始された。そこで、実際に飯舘村で栽培にかかわっておられる方から想いを聞くとともにカボチャの下処理の活動をする。
- ・この活動で学んだことを今後の学校防災・地域防災活動につなげていきたい。

### 2 期 日 令和元年 11 月 23 日～25 日

### 3 行き先 福島県市の台風被害地域（郡山市・相馬市・南相馬市等） かーちゃんのカプロジェクトふくしま 福島県飯舘村飯樋字大橋180（渡邊とみ子さん宅） 希望の牧場福島 福島県浪江町大字立野卯野 157 TEL 03-3496-2177 震災遺構等の研修

### 4 参加者 11名

### 5 引率者 田村 晃 富原 保江 猪田 将司

### 6 日 程 概 要

11月23日（土）	19:00	本校集合 夕食は済ませておく
	19:30	出発 適宜休憩・エコノミー症候群対策など
11月24日（日）	6:00	道の駅到着（洗面・休憩・朝食（各自で））
	7:00	福島県の震災被害地の視察 （浪江町・双葉町・大熊町等）
	9:00	「いいたて雪っ娘」の下処理活動 （渡邊とみ子さん宅）
	15:00～17:00	相馬市観光協会「南相馬学習ツアー」参加
	17:30	あかりのファンタジーinおだか 見学
11月25日（月）	18:30	新田川温泉・はらまちユッサ（1,150円） 夕食（各自で）・休憩・活動のまとめ
	22:30	バス乗車
	11:00	学校着
	11:30	解散 後日レポート提出

- ・希望の牧場：浪江町大字立野 春卯野 1 5 7 (朝 7 時ころ)  
0 3 - 3 4 9 6 - 2 1 7 7
- ・渡邊とみ子さん宅：飯舘村飯樋字大橋 1 8 0 (9 時～14 時)  
(福島市荒井字金剛内前 3 1)
- ・相馬市観光協会「南相馬学習ツアー」：相馬市中村字北町 55-1 (15 時～17 時)  
TEL：0244-35-3300

15:00 高速バスターミナル(案内人合流)→15:10～15:30 防災備蓄倉庫  
→15:40 磯部メガソーラ→15:50 松川浦大橋→16:00 直売所跡  
→16:10 相馬双葉漁港→16:15 原釜・尾浜海水浴場(慰霊碑・鎮魂記念館)  
→17:05 常磐相馬 IC

- ・あかりのファンタジーin おだか：南相馬市小高区本町 1 丁目 4 3 浮き船ふれあい広場  
TEL:0244-44-6014

- 7 緊急対応 事前に「ボランティア活動保険」(天災プラン)に全員加入する  
基本タイプ Aプラン(500 円)

#### 8 事前活動

- 1)被災地・被災状況についての学習 2)雪っ娘カボチャ栽培  
3)救命救急法への参加等 4)東近江市の防災リーダー養成講座への参加

#### 事後活動

- 0)活動報告書の提出 1)地域支援活動 2)ボランティア活動についてのまとめを  
「命の大切さを学ぶ教室」で発表 3)雪っ娘カボチャのジャム作り・販売等・被災地への支援

#### 9 持ち物や装備について

- 。帽子 。実習服 。軍手 。長靴
- 。健康保険証 。雨合羽(上下に別れたもの)。ウエストポーチ(貴重品入れ)。水
- 。大きなビニール袋(作業後の汚れた作業服・靴入れ)。身分証明書(生徒証)
- 。ボランティア活動保険加入カード(または災害ボランティア保険領収書)
- ・生活用品

○費用概算／1 人あたり 参加費 2,500 円

#### 参加生徒

中澤司葵	福本乙華	辻 春都	野瀬湧冬	藤岡敦広	福永里美
北尾航暉	田中陸岳	宇野康介			

## 希望の牧場・福島（福島県浪江町）



カウゴジラ

早朝の雨の中にもかかわらず  
お話をいただきました。

### 【 参 考 】

東日本大震災の翌日、福島第一原発 1 号機の建屋が爆発し、避難指示の範囲がそれまでの原発 3km 圏内から 20km 圏内に拡大した。その後も、原発の建屋が次々と爆発。騒然となるなかで、住民は取るものもとりあえず避難を急ぐしかなく、すぐに町は無人となった。

この牧場は、原発から 14 km の距離にある。牧場長の吉沢さんはホームセンターで買い物中に被爆した。渋滞を避けながらなんとか牧場に帰り着くが、施設の一部は潰れ、牧草地は地割れを起こしていた。それでも停電の中、発電機を回して牛に水を飲ませた。そして、カーナビのテレビからの情報で、福島第一原発の様子が変だということを知る。この牧場からは、遠くに原発の排気塔が見える。建屋が爆発し、牧場に緊急の通信施設を置いた警察が避難した後も、吉沢さんは牧場に残り牛の面倒を見続けた。

約 1 か月後、原則として立ち入りのできない警戒区域が設定される。警戒区域内は、牧畜が盛んだった地域で、牛約 3,500 頭、豚約 3 万頭が飼育されていた。その半数以上は餓

死したといわれるが、野生化したものなど、警戒区域内の家畜は、所有農家の承諾を得たうえで殺処分という指示も出た。

そのような中で、吉沢さんは殺処분을承諾せず、牛を守り続けてきた。当然、行政からは殺処분을承諾するように言われ、苦渋の思いで殺処分を受け入れた農家からも批判を受ける。吉沢さん自身も、なぜ飼うのか悩みに悩んだという。「この牛はもう売れないから経済価値はない。家畜でもペットでもない。なんのための飼うのかと、俺自身考え続けた。でも、俺は牛飼いとして殺すわけにはいかないんだ」。

牛を生かし続けているのは、吉沢さんだけではない。近隣の13牧場が、現在も700頭の牛を飼育している。吉沢さんは、「希望の牧場・ふくしま」に名前を変えた場所で、今も約360頭を飼育している。

福島の現実を示す証拠として、最大の被害者ともいえる牛を生かすことは意味があるのではないかと、最近は考えている。

牛たちは、この事故を生き抜いてきた、ある意味貴重な生きた資料だ。そのちょうさをきちんと進めることで、将来に大きな資料を残すことができる。何事もなかったかのように殺処分してしまっていていいのか、と吉沢さんは訴える。さらに、エネルギーのことを考えるきっかけにもなる。それは福島だけの問題ではなく、日本全体の、世界の問題でもある。それらが復興の希望につながるのだと信じて、吉沢さんは人生をかけて牛を生かす。

・大切に育てた牛の変わり果てた姿を見たベコ（牛）飼いは、ショックのあまり自殺（首吊り、切腹）をした人もいた。浪江ではもうベコは飼えない。生活していくこともできない。避難した人のほとんどが8年半たった今は生活の拠点が浪江以外になってしまっている。戻ってくるのは余生を浪江で暮らしたいと考える老人たちだけ。仕事も友人もいない被災地に若者は戻ってこない。また、かつてのコミュニティーも崩壊している。

希望とは自分が生きる目的で、苦勞して自ら作る（考える）ものである。だから、希望が失われたら、あきらめるのではなくまた見つければいい。そんなメッセージを今回の希望の牧場の訪問で感じた。

原発事故は人智を超えた事故で、アンダーコントロールはできていない。汚染水も原発敷地内でもう限界を迎えようとしている。海に流すという政府の案もあるが、そうすればまた海は汚染され漁業は成り立たなくなる。

福島の事故は原発を抱える日本の問題であり、隣接した福井県に原発銀座を抱える滋賀県も切実な問題として対策を本腰を入れて考えるべきだ。問題をなかったことにするのではなくて、前向きに考えなくては3・11で失われ・苦悩している人々は浮かばれない。

\*今年初めて吉沢さんからお話を聞かせていただいた。自身も被爆しながら何故お金にならない牛を飼い続けているのか分かった。

避難指示が出て牛飼いの人たちは家族の命を第一に考え、牛たちを見捨てて（牛の面倒を見る余裕がなく）避難した。その胸中を少し知ることができた。また、牧場に戻って見た光景にどれほどショックを受けたかも少し知ることができた。

「命を大切にすること」「希望は自分が自ら探すもの」という言葉が心に残った。今後の活動に生かしていきたい。



## いいたて雪っ娘カボチャの活動（渡邊とみ子さん宅）



カボチャの磨き作業



飯舘村の料理を美味しくいただきました。



菅野元一先生  
渡邊とみ子さん

## 【 参 考 】

渡邊とみ子さんの署「いいたて雪っ娘」ものがたりより

まえがき

平成23年3月11日の東日本大震災による原発事故によって、ふるさと飯舘村から避難を余儀なくされてしまったとき、私はその後の暮らしのことなど全く想像もできないでいました。すでに種をまく時期が来ていたので、ただひたすら「『いいたて雪っ娘』の種をまかなきゃ。その為に畑を借りなきゃ。どこに借りようか」と頭の中は避難と畑を確保しなければならないという思いで、いっぱいいっぱいでした。

夢中で過ごした避難生活でしたが、故郷を失ってみて、改めて飯舘村で過ごしてきたことがいかに贅沢であったかを思い知らされました。人は当たり前の生活に慣れてくると、「何が悪い」「誰が悪い」と、今ある環境に不平、不満を持ってしまいがちです。避難生活の中で「いいたて雪っ娘」の種をまき、手入れをし、収穫までの工程の中で私は、辛くて、悲しくて、時には悔し涙を何度も何度も流してきました。そして何度も「もういいさ」「勝手にどうぞ」と思ってきたかわかりません。しかし、芽を出して、自分の命を全うしようとする「いいたて雪っ娘」の姿にどれだけ励まされてきたかわかりません。どんなに厳しい環境の中でも必死に「生きていかなきゃ」「決してあきらめてはいけない」と、私自身を奮い立たせてくれたのでした。

「いいたて雪っ娘」の育成者・菅野元一先生はよく、「かけてきた時間は誰にも取り戻せない、歴史に残る仕事をするんだ」とおっしゃっていました。確かに四半世紀以上の時間をかけて生まれた「いいたて雪っ娘」に追いつこうとしても時間がかかることであるし、やり続けてきたことが歴史であると思いました。

原発事故の災害の中でもこうしてやり続けてきたその歴史を、私はいつしか記録に残しておきたいと思ったのでした。これからの未来に対する希望への道のりは、あとどのくらいかかるのでしょうか？

\*いいたて雪っ娘カボチャは、元農業高校の校長（菅野元一）先生が三十数年かけて品種改良したもので、2011年の春から飯舘村で栽培を予定されていた。しかし、原発事故が起こり、飯舘村は全村退避となったため、種を保存するために菅野先生・渡邊とみ子さんは避難先で苦労しながら育て続けた。

本校とのつながりは、2012年度に東北ボランティア1次隊で岩手県の遠野で活動したとき、初日にしたのがいいたて雪っ娘カボチャ畑の整備活動だった。2013年度に再び東北ボランティアで遠野に来た時に直接菅野先生に電話をして、本校で栽培したいことを伝え種を送っていただき、2014年度から本校の畑で栽培を開始した。

今回は雪っ娘カボチャの磨き作業をしました。本校で作っているカボチャに比べてずっと重く実が詰まっていた。また、震災直後に種を保存するためにご苦労をされたお話を聞き、このカボチャをいかに大切に育ててきたのかが分かった。

今後も震災を風化させない取り組みとして、カボチャの栽培をし、そのカボチャで作った商品を販売して、被災地の支援をしていきたい。

## 被災地研修（相馬市）



フレコンバック



慰霊碑



語り部の方



相馬市の備蓄倉庫内

＊語り部の方が、東日本大震災を経験され、今回の台風 19 号やその後の長雨による被害にも遭い、仕事をなくされた方だったが、非常に前向きな方で元気を逆にいただいたような気がした。

鎮魂慰霊塔では、東日本大震災の時に叔父と夫とその方が津波に襲われ、その方だけが助かった方から体験談をお聞きした。生徒たちにも命の大切さや、震災時には先ず自分の身を守ることの大切さを伝えたい。

相馬市の備蓄倉庫を見学させていただいたが、滋賀県でも各自治体ごとにこのような大規模な備蓄倉庫は必要だと思った。なお、今回の豪雨災害時にもこの施設は非常に役に立ったということでした。

## 【参加した生徒の感想】

・今回初めて福島ボランティアに参加しました。台風 19 号の影響もテレビで見てひどそうだったので、とても心配していました。バスの中から外を見てみると、汚染された土が入っていた黒い袋の中身が空になっているものがあり、それを見て心が痛くなりました。

希望の牧場では、いかに原発が危ないかということが話を聞いてよくわかりました。僕も原発は反対です。原発のかわりになるもの（水力・風力発電）がもっとい普及し、原発がなくなることを願っています。

渡邊さんの家ではカボチャをきれいにする作業をしました。僕もこの雪っ娘カボチャは好きなので、たくさんの人に知ってもらい食べてもらいたいです。

また、渡邊さんの家でご飯をごちそうになり、郷土料理などとてもおいしかったです。

相馬市の震災の研修で語り部さんが言っていた言葉に「とにかく命を守る。後はどうにかなる」。とにかく「命を守る」ことが大事だと感じました。このことを全国の人に伝えていきたいと感じました。

防災備蓄倉庫の見学ではすごく設備が整っていたので感動しました。このような施設は県や市町村単位で持つべきだと感じました。また、各家庭単位でも水や食料の備蓄は必要で 1 週間ほどの備蓄はするべきだと周りの人にも伝えていきたい。

・東日本大震災は僕がまだ小学生の時の出来事であまり記憶にありませんでした。しかし、今回初めて福島ボランティアに参加して、震災や原発事故のことを思い出しました。

希望の牧場では、学校でも牛を飼っているので牛飼いさんの気持ちはものすごく分かりました。お金にならない牛を要らないけど、1 つの命を守るために育てるのはすごいことだと思いました。

また、今年は台風 19 号の被害・豪雨被害があったのに、福島の方々は元気で笑顔ですごいと思いました。

今回のボランティア活動に参加して、自分のためにもなりすごく良かったと思いました。

・初めて”福島ボランティア”に参加させてもらいました。私が住んでいる滋賀県は地震が来ても津波はこないし、台風による被害もあまりないので、恵まれているなど感じました。だからこそボランティアをするべきだと思いました。”希望がないと生きる意味がない”とおっしゃっていて、本当にその通りだと思いました。

お金にならない牛をこれからも育てると決意しておられていて、それが俺の希望だとお話してくださいました。私の希望はまだはっきりしていません。

いいいて雪っ娘カボチャの消毒・磨き作業をしました。カボチャは思っていたより重くて、ガッシリとしていてびっくりしました。そのカボチャ料理をいただいて、とても美味しかったです。渡邊さんが歌を歌ってくださったときに、涙を流されていて、苦しかったこと、悲しかったことをすべて思い出されたんだと感じました。私ももらい泣きしそうになりました。



実際に津波の流された方からお話を聞いて感動しました。“自分の命は 自分で守って”という言葉が心に残りました。最後に握手してくださって、“若者の笑顔は元気をもらえる”と言ってくださって、それがうれしかったです。“こんな私でも、元気を与えることができるんだ”と思い、ボランティアに参加して良かった！と心から思いました。

・福島ボランティアは今年で2回目。去年より復興が進んでいたように思った。そして今回は希望の牧場でお話を聞いたり、いいたて雪っ娘カボチャの消毒・磨き作業をした。

希望の牧場で学んだことは、希望というのは「自分で道を決めて進んでいくことが大切だということ」「誰かに与えられるのではない」ということを学んだ。

いいたて雪っ娘の生産農家の渡邊とみ子さん宅では、カボチャの汚れを落としたり、消毒したりで大変な作業でした。けれども、1つ1つ丁寧にすると、お客様の笑顔が増えると思って頑張った。

1年前に行った福島と今回見た福島では、復興が進んだように見えたし、新しい情報を得ることもできた。

東北ボランティアに参加するだけでなく、毎週行っている地域支援活動同好会の活動にももっと参加していこうと思いました。ありがとうございました。

・今回初めて福島ボランティアに参加して感じたことは、語り部さんの表情が悲しそうだったことです。きっと思い出したくない過去のことを思い出していたのだろうと思いました。しかし、次の世代の若者に伝えるためという思いも伝わってきました。被災した写真を見て、今まで他人事だと思っていたことに対して、被災された方たちに申し訳ないと思いました。当たり前の方ができない人がいるということを思い知らされました。

今回の体験を通して何か自分たちにできることがあればやっていきたいと思いました。是非来年もこの活動に参加できたらよいと思いました。

## 2019 年度その他の活動（ボランティア活動から繋がった活動）

東北ボランティア活動で学んだ「命の大切さ」「人と人のつながりの大切さ」「人と地域のつながりの大切さ」そして「防災の大切さ」を地域社会に還元する取り組みをしています。以下は、本校の地域支援活動同好会の2019年度の活動です。

## 1) 復興支援 2 畳凧

本校のある東近江市は大凧の伝統文化があり、国指定の無形文化財になっている。

そこで、毎年東北ボランティア活動で交流した被災地の高校生に”判字文”と”デザイン”を考えてもらい、本校で2畳凧に仕上げて4月に本校の校庭で揚げて、DVDにして贈る取り組みをしている。

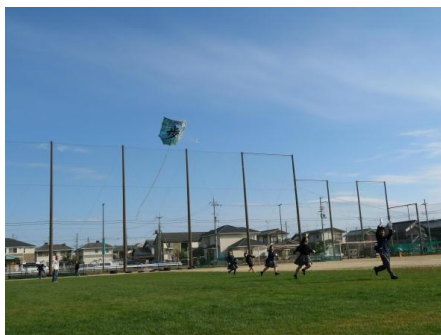
今年は、今年度交流した宮城県石巻高校生の（「歩」：復興を一步一步前に進めたい。）を揚げた。



骨組み



絵の貼り付け



飛 翔



## 2) いいたて雪っ娘カボチャ栽培・ボランティア畑での野菜栽培

### ①いいたて雪っ娘カボチャ栽培

2012年度の第1回東北ボランティアで岩手県の遠野ではじめに活動したのが”いいたて雪っ娘カボチャ”畑の整備作業だった。2013年度の東北ボランティア活動にいった折に、種を品種改良されていた管野元一先生に直接連絡を取り、2014年度から本校の畑で栽培を開始した。現在は地域の和菓子屋さんに協力していただいて、お菓子を作ってもらい、地域のイベントで販売している。また、今年は本校の食品科にジャムにしてもらい販売し、収益金を被災地支援にしている。

### ②ボランティア畑での夏野菜・冬野菜栽培

夏野菜・冬野菜を栽培し、子ども食堂（能登川・玉緒・日野）の支援をしている。



種まき



定植



除草・水やり



収穫





雪っ娘カボチャをクッキー  
にしてボランティアの土産に



雪っ娘カボチャのジャムの  
ラベル貼り



### 3) 東近江ジャズフェスでの活動

毎年4月、日赤の活動に協力して、献血への呼びかけをしている。



地域支援活動同好会と茶道部が参加した

### 4) 子供食堂での活動

ボランティア畑の野菜の支援だけではなく、紙芝居や調理の手伝いもしている。



能登川子供食堂



日野の子供食堂



玉緒の子供食堂



## 5) 止揚学園での活動

重度の知的障害を持たれた方の施設で、畑作り・（夏冬）野菜の苗植え・除草作業などをし、食べてもらっている。



定 植



除草作業



畑づくり



## 6) 地域のイベントでの活動



あゆみフェスティバル



蒲生の祭り



- ・ 二五八祭りでの活動
- ・ 雪っ娘カボチャのお菓子・ジャムの販売
- ・ ボランティア活動の紹介
- ・ 募金活動

## 7) 琵琶湖復活大作戦に参加

台風等で琵琶湖岸に流れ着いた流木やごみの撤去作業



## 8) 夏休み前の救命救急法講習会

東北ボランティア参加者・運動部マネージャー対象





## 9) 募金活動

災害に苦しむ方々に対してや海外の支援を必要としている方々のために実施している。



東近江ジャズフェス（被災地支援）



台風 19 号（被災地支援）



二五八まつり会場（海外支援）

## 10) 東近江市防災リーダー養成講座受講

本校生 7 名が受講

\* 子供たちへの防災の啓発活動にも取り組みたい。





修了賞授与



防災士受験のための救急救命講習  
4名の生徒が防災士に挑戦します。



今年2月 NHK FM 防災ラジオに出演

## 11) ボランティアスピリット コミュニティー賞受賞



神戸国際会議場



## 12) さだまさし氏のボランティア・アワード出場



今年は全国で 90 校ほどが選ばれ、パシフィコ横浜のブースで発表した。